

岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

平成 30年 1月 15 日

岡山市長 大 森 雅 夫 様

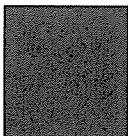
フリガナ タニフジタガクカクイボキカクイケンカイ
 団体名 第二藤田学区大規模災害対策委員会

所在地 

連絡先 

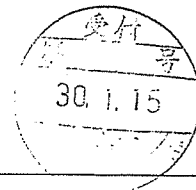
フリガナ イノウエ エンドウ タロウ

代表者 職・氏名

委員長 遠藤 太郎 

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
 ただし、個人情報に関する部分は除きます。

<p>応募分野</p>	<p>(該当の分野を○で囲んでください。) <input checked="" type="radio"/> ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他</p>
<p>事業名称</p>	<p>大規模災害に備える安全安心な二藤作り</p>
<p>事業実施小学校区・地区</p>	<p>第二藤田小学校区</p>
<p>事業実施回数</p>	<p>新規 ・ <u>継続</u> 2回目 / 【2017年度から】</p>
<p>課題</p>	<p>※地域の実情と解決をはかりたい課題、事業実施の必要性について記載してください。</p> <p>干拓地である藤田地域は海拔0m地帯であり、緊急に避難できる高い建物もほとんど無い農村地域である。30年以内に70%の確率で起こるとされている南海トラフを震源とする大規模地震が起これば、浸水・液状化・津波などによる甚大な被害が予想される。この様な大規模災害に対応できる自主防災組織も少なく、備蓄や一時避難施設も少なく、学区内住民の意識も低い。ひきつづき、各種訓練や研修を通じて改善していくことが求められている。</p>
<p>事業の目的</p>	<p>※事業を実施する「目的」を記載してください。</p> <p>大規模災害等の発生に対応できる第二藤田学区の体制を整備し、学区内住民の防災意識向上をはかることで安全安心な地域作りを推進することを目的とする。</p>



事業の内容	<p>※具体的に実施する活動内容を箇条書きで記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学区内各町内会を基礎とした自主防災組織の結成促進及び内容の強化。 ②防災資機材の整備や備蓄を行う。 ③緊急避難場所等による学区及び町内会単位の避難訓練を実施する。 ④町内会単位の防災リーダー育成のため、先進的取り組み地域や防災関係の研究機関などへの視察研修を行う。 ⑤3月に行われるウォーキングと炊き出し訓練では、AEDや煙道体験、起震車の体験など防災訓練と併せて、健康増進、気軽に参加できる企画として笹ヶ瀬川河川敷ウォーキングを行う。 ⑥昨年実施したはがきアンケートに基づき、地区別の意識状況や要望の基づき防災訓練の実施や行政などとの連携強化に取り組む。 ⑦学区内の危険箇所(堤防・用水等)の点検と対策の検討、緊急避難場所(簡易避難塔等も含む)の確保などとりくむ。
期待される成果・目標	<p>※事業実施することで、変化すること、期待している成果、事業実施後にどこまで到達しておきたいか「目標」を記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 学区内住民の防災意識と自助共助の意識の向上。 ②学区内で不足している防災知識の向上、資機材の充実など課題の明確化を計る。 ③継続した取り組みを通じてあと2年間を目途に学区内町内会の自主防災組織率100%を目指す。 ④各種訓練や研修を通じて、全町内会から1名以上の防災委員と委員会メンバー等防災関連リーダーの育成を図る。
企画などの工夫	<p>※通常、日常的に実施している事業をそのまま提案された場合は、対象とならない可能性があります。区づくり推進事業の申請にあたって、何をどう変えたのか、どこに活動の目的や対象をしぼったのかなど、企画にあたっての工夫をお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2ないし3町内会程度で図上訓練を行い、これを二藤全体で見学し検討を行う。 ②2月実施の神戸への研修に続き、9月に淡路島野島断層保存、北淡震災記念公園への研修を行う。 ③アンケートハガキを300件余り回収したので、これを基に二藤地区の防災意識や要望などをつかむことが出来たので、具体的に地区別の取り組みの強化を図る。
協働する団体等	<p>※事業実施にあたり協働することを想定している団体・企業・大学等の名称とその団体間の役割分担について記載してください。あるいは提案団体が既に協働組織となっている場合は、事業実施メンバーの備考欄に団体名をご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二藤学区内各種組織や、緊急避難場所として協定を結んでいるゲットゲット1000・Ksデンキ・源吉兆庵の駐車場などの場所的協力をお願いし、地区・町内会単位の避難訓練など実施する。
事業の情報公開	<p>※区づくり推進事業は、広く区民への情報提供することが義務づけられています。地域住民をはじめ区民への情報提供、あるいは情報公開の仕方についてご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館便りや回覧などでお知らせするとともに、市の広報などに掲載していただけるよう取り組む。また、小学校や保育園中学校などへも積極的に知らせる。

学区地区への広がり	<p>※小学校区・地区より狭い範囲（単位町内会等）での事業を実施される場合は、学区・地区等への活動の広がりや課題の共有などをどのように進めていきますか。取組方について記載してください。</p> <p>昨年は学区単位の取り組みを中心としてあったが、今年度は図上訓練や地区・町内会単位の取り組みを重視し、その訓練などを学区全体で見学するなどして学区全体へ広げてゆく。</p>
前年度からの見直し拡充点	<p>※継続事業で申請される場合は、前年度の事業の成果を踏まえ、今年度の事業の改善・拡充点を記載してください。また審査会での助言・コメント等について改善・拡充したことを記載してください。</p> <p>① 昨年度は初めての取り組みであり、手探りの状況であった。その中で、アンケートへ多くの方が答えてくださり、学区民の意識も見えてきた。</p> <p>② 今年度は、地区民の疑問や要望・意識に答えられるよう学区での研修や訓練などの取り組みと同時に、地区や町内会の取り組みを重視してゆく。</p>
次年度以降の予定	<p>※今年度の事業を受けて次年度以後どのように活動を展開していくか、また資金の確保をどのように進めていくかをご記入ください。</p> <p>① 次年度以後の活動計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業は継続していくことが重要であるため、各種研修、避難訓練、炊き出し訓練などを充実させるとともに、町内会単位の自主防災会結成を加速させるために個別町内会を指定し防災リーダーの育成と、活動の強化をはかる。 <p>②資金の確保について</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>次年度も区づくり推進事業を申請する予定</p> <p><input type="checkbox"/>（ ）年後には、自己資金を確保して地域の独自展開をしていきたい。 資金確保の具体的な方策：</p>
その他PRしたい点	<p>①干拓地であり、緊急避難場所がほとんどない第二藤田学区で、他地域の経験にも学びながら災害に強いまちづくりをすすめる。</p> <p>② アンケート調査結果に基づき、防災意識の向上と課題を煮詰め、具体化を図る。</p> <p>③ 単位町内会を基本にした自主防災会立ち上げを支援し、第二藤田学区全体として災害に強いまちをめざす。</p>

事業スケジュール (企画会議や反省会も含めてご記入ください。日程が未定の場合は月だけで結構です。)

月日	活動内容
4月	・第二藤田学区大規模災害対策会議の総会開催。
5月	・事務局総務関係会議(役員会)開催 防災訓練や自主防災会結成を進める町内会などの検討
6月	・5日、町内会長会議で先進町内会の経験交流を図る。 ・地区・町内会単位(2～3)での図上訓練や防災訓練の実施。
7月	・ふじた桃太郎どんぶらこまつり実行委員会と併せて防災コーナーについての検討を行う。
8月	
9月	・淡路島への学習・研修会の実施。
10月	・7日「ふじた桃太郎どんぶらこまつり」に防災コーナーを設け防災グッズの展示と実演(簡易トイレ・浄水器・水なしシャンプー、非常食の試食など)を行う。防災アンケートの実施 ・行政(区役所)との懇談の実施
11月	・役員会開催、自主防災会結成状況の検討と具体化
12月	・委員会開催、来年度計画と今後の取り組みについて検討を行う。
1月	・学区新年互例会にて取り組みの紹介
2月	・炊き出し訓練とウォーキング実行委員会の開催
3月	・炊き出し訓練とウォーキング実施。(消防署による煙道体験や、起震車による地震体験。AED操作、簡易トイレの展示、簡易浄水器などを使用して緊急避難時を想定した訓練と体力作りのためのウォーキングを行う。)チェーンソーを使って材木を切る実演

収 支 予 算 書

◆ 収 入

単位:円

項 目	前年度決算 (決算見込可)	予 算	備 考
岡山市補助金	950,000	210,000	(100 円未満の端数切捨て)
実施団体負担金			
参加者負担金	45,000	45,000	研修参加費
協賛金	60,000	50,000	企業等
寄付、他収入	270,561	152,475	連合町内会等
計	1,325,561	457,475	

◆ 支 出

単位:円

費 目	前年度決算	予 算	備 考
消耗品費	948,506	85,275	別紙参照
食料費	45,000	45,000	研修時昼食代 ¥1000 × 45 人分 会議時のお茶代
印刷製本費	51,848	15,000	会議資料・案内印刷他
通信運搬費	25,669	12,000	案内ハガキ・切手他
使用料・賃貸料	27,000	35,000	入館料、駐車料金
原材料費	3,078	5,000	炊き出し材料費
報償費	15,160	15,200	講師謝礼
保険料	9,300	15,000	各種調査時の保険代金
旅費	200,000	230,000	北淡震災記念公園への研修バス 代及び高速料金
その他			
計	1,325,561	457,475	

◆ 概算交付の要否(いずれかに○をしてください)。(補助金額が20万円を超える場合のみ)

補助金の概算払いを	<input checked="" type="radio"/> 希望する	<input type="radio"/> 希望しない
-----------	---------------------------------------	-----------------------------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください

財政がないため是非よろしくお願いたします。

注①：前年度決算額が確定してない場合は、見込み額を記入してください。

注②：支出の費目は、消耗品費・食糧費・印刷製本費・旅費交通費・通信運搬費・謝礼金・会場使用料・保険料など適当な費目に分けて記入し、備考に積算内訳を記載してください。

※記入欄に書ききれないときは、別紙として添付してください。